

昭和六〇年三月十五日発行

会報

第十七号

社団法人・岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会

会 報 第十七号 目 次 (題字「会報」は石川理事長筆)

あいさつ	……………	理事長 石川 文治	…	1
昭和 60 年度東鍼連総会・岩手大会を成功させよう	……………			2
県鍼按師会 昭和五十九年度日誌	……………			2
会員調査表	……………			4
昭和五十九年度定期総会	……………			5
昭和五十九年度東鍼連総会青森大会	……………	副理事長 越本 政男	…	7
全鍼師会五十九年度代議員会・総会レポート	……………	副理事長 越本 政男	…	11
学術講習会	……………			16
日東医学会学術大会（熊本大会）に参加して	……………	副理事長 越本 政男	…	17
岩保会の動き	……………			20
中央業会の動き・日鍼会・全鍼師会	……………			22
岩盲協理事長・大堂他人氏逝く	……………			24
本会顧問・畠山忠治氏逝く	……………			25
畠山忠治さんを偲んで	……………	花巻師会長 多田 兼雄	…	26
弔 辞	……………	理事長 石川 文治	…	26
故畠山忠治さんを偲んで	……………	顧 問 菅野 長治	…	27
師会だより	……………			29
盛岡・花巻・北上和賀・胆江・一関・釜石・宮古・久慈・メモ	……………			36
三療受診患者 1.2%	……………			37
編集後記	……………			41

昭和 59 年度 定期総会

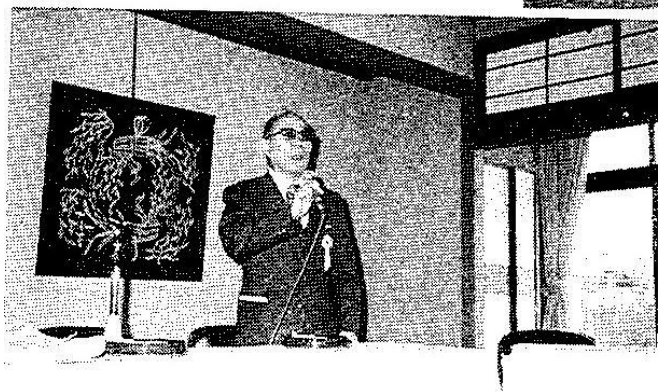
一関市 巖美溪で開催される 4 月 21 日



会場のいつくし園



巖美溪の溪流



歓迎の辞を述べる北峰一関師会長



来賓祝辞 祝辞を述べる志賀代議士秘書
右どなりは一関市長



挨拶する 石川理事長



会 員



懇 親 会



宴たけなわ・カラオケ



理事長 石川文治

会員の皆様には御壮健にて三療に御精励の事お慶び申し上げます。本会は役員並に会員各位の御働きによりまして着々内容を充実させて頂いておりありがとうございます。

昭和五十九年度は日保連の解散等いろいろのことがありました。年度はじめに鍼灸治療の患者救済に関する請願書を小沢一郎氏の紹介議員で衆議院に提出しましたが、厚生省の壁はまだ厚い様です。

長年に亘り私達を導き頂きました大堂他人先生が五月二十二日に永眠され盛岡市愛宕町の正伝寺で告別式と法事に参列しましたが先生を偲んで参会者も大勢でした。大堂先生には私達業界は本当にお世話になり有難うございました。謹んで御冥福をお祈り致します。

日保連総会が健保薬業会館で六月十日にあり佐藤岩保会副会長が出席されましたが解散となりその後現在、健保推進団体協議会として発足運営されています。全鍼師会、日鍼会、日マ会、日盲連の四団体から理事を出し健保協定の推進と現状の療養費払の条件の改善等に取り組むことになっております。岩保会は七月二十二日の総会に於いて存続と決定し今後の受け皿又は運動の基盤とすることになりました。

本会の顧問畠山忠司先生が急性肺炎で七月九日に亡くなられ十二日花巻の宗青寺で告別式があり菅野顧問、石川、渋川の三人と花巻師会会員が多数参列されました。先生の略歴その他の事は弔辞の中で申し上げます。

東北六県師会長会議が仙台市花京院「ホテル栗原」で十月十三日にあり関野全鍼師会長が出席され日保連解散後の状況、政治連盟の件、青年部設置の件等に付き話しがあり翌十四日には宮城県師会の社団法人認可十周年記念大会が宮城県労働福祉会館で一三〇名程の出席で盛大に挙行されました。吾が岩手でも間もなく十周年になりますので勉強になりました。

全鍼師会会長会議が四谷の全鍼師会会館で十一月二十三日午後一時より四時半迄あり視覚障害者対策、健保協定推進協議会、政治連盟、日東医学会、無免許対策等の議題で協議して来ました。

岩手県あん摩、マッサージ、指圧、はり、きゅう、柔道整復等地方審議会が十二月十三日午後県庁四階特別会議室で開かれ昭和六〇年試験と法律の一部改正についてでした。

東鍼連総会岩手大会を六〇年七月六日（土）七日（日）つなぎ温泉愛真館で開催致します。

大会実行委員会を既に二回にわたり進めておりますが、皆様にはふるって参加を頂きお力をかけて頂く様お願い致します。

第三十九回東鍼連六十年定期総会 岩手大会を成功させよう

理事長 石川 文治

実行委員会委員長 渋川 澄意

副委員長 中村 哲夫

下佐 征昭

三沢 五郎

猪ノ口 富蔵

大川 イト

鞠子 栄
事業部長 越本 政男

本年度の総会で、承認を頂きました、東鍼連六〇年度総会岩手大会開催のための実行委員会を右記のメンバーにより結成し着々と準備を進めて居ります。この大会を是非成功させたいと思います。このためにも会員各位の絶大なる御協力と御支援を頂かねばなりませんので宜敷く御願ひ致します。大会当日は多数の御参加をお願い申し上げます。尚、日程は次の通りです。

日 時 昭和六〇年七月六日（土） 七日（日）

会 場 盛岡市 つなぎ温泉 愛真館

会 費 1,2000円（予約金2,000円、6月5日まで納入してください）

七月六日 午前十一時より師会長会議・午後一時より四時まで総会午後六時より懇親会

七日 午前九時より関野全鍼師会長を囲んで研修会を行ないます。また、六日総会終了後、関野会長による業界の諸情勢についての講演もあります、生の情報を得る機会です、重ねて多数の御参加を御願ひ申し上げます。尚参加申し込みは各師会の師会長さんにして下さい。

社団法人・岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会

昭和五十九年度 日 誌

昭和 59 年

3・18 午前十一時より盛岡市「さくら会館」において理事会を開催する。

4・21 午後一時三〇分より一関市巖美溪「いつくし園」において五十九年度定期総会を開催、出席者六十七名、委任状七十八名

5・10 堀文三郎氏の鍼灸治療の患者救済の請願書（本県分千三百名署名）小沢一郎代議士の紹介を得て本部に送付

5・13～14 午後十二時三〇分より東京都大島町「大島総合開発センター」において開催の五十九年度全鍼師会定期総会に越本副理事長出席する。

— 2 —

5・22 午後六時四十五分・社会福祉法人岩手県盲人福祉協会理事長大堂他人先生死去

5・27 午後二時より盛岡市愛宕町、正伝寺に於いて営なまれた、大堂他人先生の告別式および法事に石川理事長参別する。尚、会員も多数参列した。

7・1 東鍼連昭和五十九年度定期総会青森大会が大鰐温泉「ホテル雪友」で開催され、本会より十九名が出席する。総会参加者数一六五名。

7・9 本会顧問 畠山忠司氏死去。

7・12 花巻市宗青寺に於いて行われた告別式に石川理事長他多数の会員が参別した。

8・19 第一回常務理事会を午前十一時より盛岡市中央通・共済ビルに於いて開催する。

8・19 昭和六〇年度東鍼連総会岩手大会実行委員会が発足する。石川・越本・渋川・下佐・中村・猪ノ口・三沢・大川・鞠子栄の九氏を委嘱する。

9・22 第一回東鍼連総会岩手大会実行委員会小委員会を盛岡市・盲人ホームに於いて開催する。

9・29～30 熊本県郵便貯金会館に於いて開催の日本東洋医学系物理療法学会学術大会（熊本大会）に本会を代表して越本副理事長参加する。

10・13 東北六県師会長会議が仙台市花京院「ホテル栗原」に於いて開催され石川理事長出席する。

10・13～14 盛岡市北山 県立盲学校に於いて社会福祉法人岩手県盲人福祉協会と共催で学術講習会を開催する。講師 筑波大学助教授医学博士 西条一止先生。テーマ 鍼灸マッサージの臨床について、鍼灸マッサージにおける内外の諸情勢について。

10・14 宮城県師会の法人化十周年記念式典ならびに祝賀会が仙台市 宮城県労働福祉会館に於いて開催され、石川理事長出席する。

11・18 第二回東鍼連六〇年度総会岩手大会実行委員会を午前十一時より盛岡市・盲人ホームに於いて開催する。

11・23 全国師会長会議が東京都新宿区四谷三丁目「全鍼師会会館」で開催され、石川理事長出席する。

昭和 60 年

1・13 第二回常務理事会を午後一時より花巻温泉「ホテル紅葉館」に於いて開催、理事会及び総会・東鍼連岩手大会等の案件を協議する。

1・13 昭和六〇年度東鍼連総会岩手大会第三回実行委員会を花巻温泉「ホテル紅葉館」に於いて開催、具体的項目について協議する。

－ 3 －

会 員 調 査 表

(注) 岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会

昭和 59 年 12 月 1 日 現在

項 目 師会名	会員数	女性会員数	休会の会員数(病休)	自営業の会員数	業者を雇い入れての自営業会員数	病院・施設などに勤務の会員数	高令会員数(七〇歳以上・会費免除)	使用している文字	
								墨 字	点 字
盛 岡	50	15	2(1)	42	0	8	3	14	36
花 巻	17	5	0	17	0	0	2	4	13
北上・和賀	12	5	0	12	0	0	2	2	10
胆 江	27	8	1(1)	22	0	5	6	10	17
一 関	14	1	2(2)	13	1	1	2	5	9
東 磐	5	0	0	5	0	0	1	0	5
気 仙	10	2	0	10	0	0	0	3	7
遠 野	3	0	0	3	0	0	1	0	3
釜 石	11	3	1	10	0	1	0	4	7
宮 古	20	5	2(2)	20	0	0	1	7	13
久 慈	3	2	0	3	1	0	0	0	3
県 北	14	2	1(1)	14	1	0	0	4	10
合 計	186	48	9(7)	171	3	15	18	53	133

昭和五十九年度 定期総会 一関市で開催

昭和五十九年度の定期総会は、四月二十一日午後一時三〇分より、一関市の景勝地である巖美溪の「いつくし園」に於いて開催された。総会終了後、大広間に於いて懇親会が開かれ歓楽の一夜を過ぎ翌朝九時過ぎ散会した。

総会前日の二〇日は、春四月と言うのに思わぬ大雪に見舞われ岩手路は冬景色きながら、例年なら桜がほころび始めるのに巖美溪は雪景色で風が冷たかった。一関師会の皆さん有難うございました。ほんとうに御苦労さまでした。

昭和五十九年度・定期総会議事録

日 時 昭和五十九年四月二十一日 午後一時四〇 分開会

会 場 一関市巖美溪 いつくし園に於いて

司 会 総務部長 下佐征昭

当日出席者 六十七名 委任状提出 七十八名

点呼の結果、総会は成立した旨の開会宣言が行われ、午後一時四〇分開会

一、開会の辞および歓迎の挨拶を一関師会長 北峰忠志氏が述べる

二、理事長挨拶 石川文治

三、来賓祝辞

1 志賀節代議士秘書

2 及川一関市長

3 佐藤一関保健所長（代理）

4 岩井清三名誉顧問の順に述べられる

四、祝電披露 志賀代議士ほか三通が読みあげられる

五、議長選出の件 司会者より選出方法を諮る、執行部一任の多数決により執行部は加藤敏勝氏を指名する。加藤氏議長席に登壇し就任挨拶のあと、議事録記録人に越本政男、署名人に佐々木至・飯田直二の三氏を指名し議事に入る。

議事

六、第一号議案 昭和五十八年度各部報告

1. 理事長会務報告 石川理事長より次の項目について報告が行われた。

(1) 松田惣次郎 黄綬褒章受章祝賀会

(2) 胆江師会創立七〇周年式典の挙行

(3) 東鍼連師会長会議

(4) 全鍼師会師会長会議

(5) 東京都の堀文三郎氏を会長とする「鍼灸の保険協定を進める会」の国会陳情請願署名運動の協力について

(6) カイロ養成施設の設置については、厚生省が不認可したことも付け加える。

2. 昭和五十八年度（第三十七回）東鍼連総会・秋田大会報告・越本事業部長

3. 全鍼師会・法対策委員会報告・全鍼師会法対策委員 渋川澄意副理事長

この件に就いては報告ではなく全鍼師会情報という可きで、あん摩術に酷似したカイロや種々な手技に就いて、どう名称を付ければ良いか、検討をしている。また鍼灸に就いては、医療の中

に認めようという考え方が論議されているが、此の件は医師の従属下に置かれることになり、現在のように自由治療が不可能となることが必至である。従って鍼灸が医療として認められることで喜び乗らぬ様と警告を与えられた。

4. 日本東洋医学系・物理療法（第九回）学術大会 神奈川大会報告 副理事長 越本政男
会報第十六号に詳細に掲載してありますので簡単な報告とする

5. 昭和五十八年度庶務報告（別表）総務部長 下佐征昭

6. 昭和五十八年度事業報告（別表）事業部長 越本政男

7. 保険部報告 理事長 石川文治

岩保会に於ける保険推進委員会について説明する。

議長より、右報告案件について質疑を求める、質問はカイロとは如何なる手技か、渋川副理事長は脊椎喬正法であると答え、保険取扱いの成果が見られない、つまり此の問題の障害になっているものは何かの質問について、渋川副理事長は、一つには全鍼師会、日鍼会、日盲連、日マ会の各首脳部の確執によるもの、二つには武見医師会長当時における同会の鍼灸を認めないという指示によるものであると答える。福岡方式とは何か等の質疑があり、報告通り満場拍手により承認される。

七、第二号議案 昭和五十八年度収支決算報告（別表）会計部長・渋川澄意氏報告のあと、山本孝一 監事、監査報告を行う。報告通り承認可決。

八、会費値上げの件、石川理事長より提案理由の説明あり。

提案要旨、全鍼師会では昨年度に政治連盟を結成した。これは今後全鍼師会が政治運動を行うためであり業権の確保のためにも重要であるので、この会費は一、〇〇〇円であります。特段の御理解を頂だし、御承認を頂だし度い。この認明に対し政治連盟とは何かの質問が出され渋川副理事長答弁に立ち、日保連では会費の一部を日鍼会政治連盟名義で流用されていたことが、五十八年の総会で暴露された、日保連の構成では吾全鍼師会員が多数を占めている、憤りを禁じ得ない。全鍼師会独自の立場で政治行動を起す事は歓迎す可きことである。

難問題解決のために政治家に訴えるにも政治連盟が無ければ只聞き置くで、効果を挙げる事は出来ない、政治連盟があれば政治に直接に吾々の意志や訴えを反映できる。執行部原案通り可決される。

九、昭和五十九年度事業計画案の件（別表） 越本事業部長提案説明どおり可決。

— 6 —

十、昭和五十九年度収支予算案の件 渋川会計部長 提案説明。原案どおり可決（別表）。

十一、東鍼連六〇年度総会岩手大会開催の件

石川・渋川・下佐の執行部三氏が説明する。

(1) 会費は一名 一二、〇〇〇円

(2) 会場は「つなぎ」の愛真館を既に予約している

(3) 実行委を作り開催を成功させるために対処したい。提案説明どおり満場拍手により承認される。

十二、昭和六十一年度 定期総会開催地の件 石川理事長より北上、和賀師会に開催を御願いたい旨説明。満場拍手により承認決定する。これにて議事の一切を終了し、加藤議長退席の挨拶を行い満場拍手を浴びながら降壇する。

十三、閉会の辞 常務理事 中村哲夫氏が述べ午後四時過閉会とする。 以上

議事録記録人 越本 政男 印

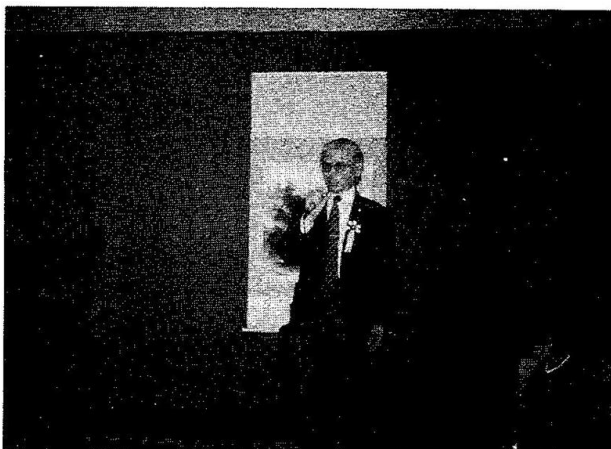
議事録署名人 飯田 直二 印

議事録署名人 佐々木 至 印

昭和五十九年度（第三八回）東鍼連総会青森県大会

日 時 昭和五十九年七月一日（日）午後一時

場 所 青森県南津軽郡大鰐町 ホテル雪友に於て



挨拶する関野全鍼師会会長

— 7 —

出席一六五名、うち岩手県からは一九名が出席した。この日は三十度を超える暑い一日だった。沿岸の釜石から大鰐まで遠い道のりで、この日午前五時に出発し列車の乗り次四度、それでも一五分の遅刻で会場に到着する。

総会は開会宣言・各県の物故会員に対して黙祷・歓迎の辞・東鍼連会長挨拶・全鍼師会関野会長挨拶・祝電披露などが形通り行われた。

関野全鍼師会会長挨拶要旨

五十九年度は信頼と尊敬を基盤とした、団結と実践力のスローガンで諸事業を行なう。デマや「うそ」業界の真実を伝えるべく録音テープを製作配布を準備中である。先程、当地選出の竹内代議士が出席された、ブロック会議としては大変珍しいことだ。青森県師会が可成り評価されているものとして喜ばしいことです。しかし吾全鍼師会は一万三千人余の会員を持っているが政治力が弱い。恒に正論を吐露していても金がない。昨年は五百円を集めて頂いたが、矢はり不足である。今年度の総会で政治連盟を正式に発足させることが出来たことは喜ばしい。



議長団・右渋谷副理事長

議事に入る前に議長団を選出する。恒例により当番県の青森・次期当番県の岩手が議長団となる。（岩手から渋谷副理事長が就任、ソフトムードで見事な手さばき、ほれぼれする名議長ぶりだった）

議事は、五十八年度事業および決算を承認したあと、五十九年度の事業計画案ならびに予算案が一括審議された。

川村東鍼連会長より、次の通りの事業計画案の説明が行われた。

一、東鍼連学術大会を各県輪番制による開催、その際東鍼連より一〇万円を補助する。但し、実施するためには各県三万円程度の会費となる。また、行政当局より助成金を仰ぐよう折衝したい。

— 8 —

二、青年部を結成したい。そして東鍼連総会にも青手部会代議員として出席させたい。

三、全鍼師会所得補償制度への全員加入。

右の三点について活発な討論（文字通り青森大会である。青森の会員が九十%以上の発言である）と質疑が交わされた結果、東鍼連学術大会の輪番開催の件については、当分の間希望県による開催とする。青年部結成については、今後各県の状況を見ることとし、各県とも結成が出揃った時に改めて規約の改正などを行ない、代議員についても審議する。三、については各県とも努力目標とする。

次に各県の現況報告

秋田県 昨年開催の東鍼連大会の成功について謝辞を述べ、学術振興についての事業、治療奉仕活動、青年部結成、準備中。

山形県 昨年は法人化三〇周年記念式典を行ない、本年六月には創立六〇周年記念祝賀式典を開催した。施設費払方式について研究中。

福島県 最近、本県の会員が減少中である。役員の責任なのか、不況によるものか、実態を調査している。今後三年間に六〇時間の講習を行なう。行政当局より応援するという回答を得ている。

宮城県 青年部会（四〇才以下一〇〇名）指圧会、教員会（盲校教師）の三部会がある。会員数は三五〇名。学術講習は県を三地区に分けて実施している。年に一三回程行なっている。また、六団体による協議会を年に一回開催し意志の疎通をはかる。法人化一〇周年記念祝賀式典開催を予定。



懇親会・津軽民謡ショー

岩手県 会報の発行、奉仕活動、学術講習会（二日間）開催会員の調査等を行なう。

青森県 昨年度は日盲連大会や東鍼連大会を前にしたので準備に追われての一年でした。

— 9 —

総会はこのあと、次期開催県を岩手県と決定し、川村智夫氏を新会長に選び午後三時半頃閉会された。

閉会后約三〇分間、関野全鍼師会長より中央の現況報告が行なわれた。夜七時ごろより懇親会が開催され津軽民謡を聞きながら歓談のひと時を過ぎた。翌朝九時より約一時間に亘り関野全鍼師会会長と川村東鍼連会長を囲んでの座談会が開催され、午前一〇時散会する。

副理事長 越本政男

昭和五十九年度東鍼連総会・青森大会参加者名簿（敬称略）

石川文治・渋川澄意・越本政男・三沢五郎・猪ノ口富蔵・中村哲夫・多田兼雄・鞠子栄・大川イト
伊藤一男・大野六雄・相ノ山啓子・板橋トク・佐藤種二、以上会員十四名、その他介護者五名合計十九名。

代議員・渋川澄意・越本政男

東北ブロック会議とその他の報告

理事長 石川文治

東北ブロック六県師会長会議

日 時 昭和五十九年十月十三日（土）午後一時～四時三〇分

場 所 宮城県仙台市花京院二一〇二七 ホテル栗原

出席者 関野全鍼師会会長 川村会長（宮城） 鈴木（福島） 石塚（秋田） 秋葉（山形）

石川（岩手） 上野、小松、田中、高橋、大場 他

議 事

監事は当分の間現行通り

学術大会は仙台で行うが各県で行うときは東鍼連と共催の形で名称を入れる

副会長 石川（岩手） 鈴木（福島）

監 事 秋葉（山形） 石塚（秋田）

青年部の設置 昭和二〇年以後に生まれた人々を結集して業界の推進力にする。

宮城県では旅費・会場費・弁当代として十五万円の予算を取った。

六〇年二月に宮城県青年部大会開催の予定

関野会長

日連の解散は、人件費・家賃・電話料等年間数 100 万円になるので、十一月十日に最後の役員会をもって清算する。五十八年度未納の会費は徴収、今後は健保協定団体協議会として各会より三名の

— 10 —

役員を出し費用は均等に支出し決議は満場一致によって決める。健保協定と療養費の改定が目標である。

健保協定は困難であるができたとしてもバラ色ではない。また健保協定団体協議会の負担金は全鍼師会で持つことになるが、これを各県で出していただかねばならない。

次に全鍼師会の政治連盟の件では、各県で会員十名を登録して頂き年間一方円を出してほしい。十一月二十三日に全国の師会長会議を開いてお願いする予定。以上で終了。

五時三〇分より懇親会、栗原に一泊。

宮城県師会社団法人認可一〇周年記念大会

日 時 五十九年十月十四日（日）午前十時—十二時三〇分

会 場 仙台市上杉一丁目宮城県労働福祉会館 5F

黙祷にはじまり、表彰状、全鍼師会より七名、社団法人宮城県師会表彰状四〇名、感謝状三五名、団体への感謝状六団体。

来賓祝辞 衆議院議員武田一夫先生外多数

祝賀会

午後十二時四〇分より三時迄、一三〇名程参加で盛会でした。

昭和五十九年度定期会員総会、代議員会及び全国理事会



大島総合開発センター

— 11 —

次 第

(社) 全日本鍼灸マッサージ師会

日 時 昭和五十九年五月十三日(日)・十四日(月)

場 所 伊豆大島 於大島開発総合センター

二階大会議室

東京都大島町元町 電話 〇四九九二-二一-四四一

第一部 全国理事会

日 時 五月十三日 AM 八時三〇分～十一時三〇分

1. 会長挨拶並びに五十九年度施政方針について

議 事

1. 昭和五十八年度事業並びに昭和五十八年度収支決算について

2. 昭和五十九年度事業並びに収支予算について

3. 日保連の改組について

4. 鍼灸の健保を進める会の援助について

5. 代議員会並びに総会の運営について

(1) 地方提出議案並びに会員の提案の取り扱いについて

(2) 理事の役割分担について

6. その他

第二部 代議員会

日 時 五月十三日 PM 十二時三〇分～五時

五月十四日 AM 八時三〇分～十時

1. 出席代議員の点呼

2. 開会宣言

3. 会長挨拶並びに五十九年度事業の基本方針について

4. 議 事

(1) 正副議長挨拶

(2) 昭和五十八年度各局各部事業並びに各部委員会の活動について 各担当責任者

(3) 昭和五十八年度収支決算について 財務部長

- (4)監査報告 監事代表
- (5)昭和五十九年度各局各部事業計画並びに各委員会の活動について 各担当責任者
- (6)昭和五十九年度会費並びに収支予算について 財務局長
- (7)日保連の改組について
- (8)鍼灸の健保を進める患者団体の支援について
- (9)地方提出議案について

第三部 会員総会

日 時 五月十四日 AM 十時～PM〇時

1. 会長挨拶並びに五十九年度事業の基本方針について

— 12 —

2. 来賓祝辞並びに祝電披露

3. 議 事

- (1)正副議長挨拶
- (2)昭和五十八年度、昭和五十九年度事業並びに昭和五十八年度収支決算、昭和五十九年度収支予算ほか、代議員会議決事項の承認について
- (3)昭和五十八年度事業、昭和五十九年度事業並びに昭和五十八年度収支決算の監査について
監事代表
- (4)会員の提出議案について
- (5)その他の提案について

第四部 政治連盟総会

日 時 五月十四日 PM〇時～一時

1. 委員長挨拶並びに昭和五十八年度の活動について
2. 昭和五十八年度収支決算並びに昭和五十九年度予算について
3. 副委員長の選任について

付 記

※懇親会

日 時 五月十三日 PM 五時三〇分～七時三〇分

場 所 小涌園

費 用 本会負担

(社) 全日本鍼灸マッサージ師会
昭和五十九年度代議員会ならびに定期総会



総 会

出席 一六〇余名 東北ブロックからは、青森一・岩手一・秋田一・宮城三・山形三・福島一が参加した

代議員会 十三日 PM 一時三〇分

各部会報告の中から重要と思われるものを記してみよう、他は資料を参照されたい。

◎ 昭和五十八年度事業報告の中から

1. 第三次関野執行部の誕生
2. 新執行部の人事の一新を打ち出し、副会長二名の増員、各部局の次長制度の徹廃
3. 政治連盟の発足、過般の総選挙で師会推せんの議員八九名の当選
4. 日東医学会神奈川大会の大成功
5. 日中学術交流を目的として、全鍼師会第一次訪中団を結成し中国訪問を実現。当地に於いて中国鍼灸の第一人者である王雪苔氏と関野団長は親しく、尊敬と友情と協調を確かめ合い「日本に全鍼師会あり」の印象を王氏の胸中深く埋没させた。
6. 所得補償制度の実現

保険部報告の中から

1. 五十八年度に於ける日保連の存在が危ぶまれてきた。日鍼会は鍼灸のみに、日盲連は視覚障害者の権益のみに各々視点をおき、全鍼師会の基本的精神である晴盲を問わず、三療の業種の擁護完全一致を見出せないのである。
2. 次の三点を厚生省に要求した
イ 社会保険診療報酬点数表にマッサージの項目の復活
ロ マッサージ料金の値上げ
ハ マッサージ師の身分の確立
3. 「鍼灸の保険を進める会」患者代表の堀文三郎氏が積極的に運動を展開、全鍼師会も堀代表の熱意を諒とし、協力運動を推進する。

◎ 組織局活動報告の中から

- イ 会員数は六%増の七七四名の新規入会会員を見る成果をあげた。
- ロ あらたに香川、宮崎、高知の三師会が法人格を取得した。
- ハ 会員の移動状況報告

五十四年三月三十一日現在 一〇、九一八名

五十五年三月三十一日現在 一一、八四九名

五十六年三月三十一日現在 一二、二三二名

五十七年三月三十一日現在 一一、七三三名

五十八年三月三十一日現在 一二、六四九名

五十九年三月三十一日現在 一三、一九五名

ニ (社) 全日本鍼灸マッサージ師会名便覧の作成

◎ マッサージ部報告から

五十八年度はマッサージ料金および施設使用料の調査に専念した。

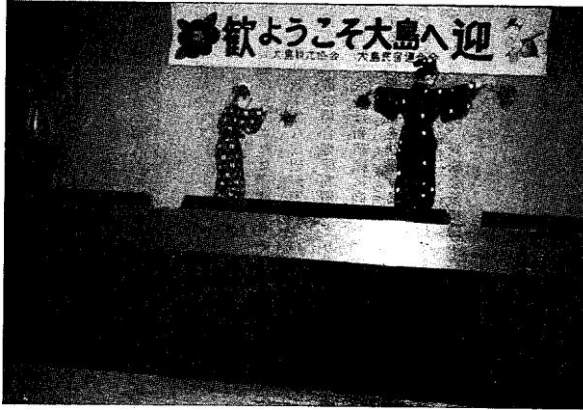
調査報告累計

回答 二十二県師会 地域別回答 一六八ヶ所
マッサージ料金 一、七〇〇円 ～ 四、〇〇〇円

同施設使用料金 〇円 ～ 五〇〇円
鍼灸料金 一、〇〇〇円 ～ 五、〇〇〇円
鍼灸マッサージ併用料金 二、〇〇〇円 ～ 八、〇〇〇円
同施設使用料金 〇円 ～ 八〇〇円

昭和五十八年度決算報告

以上、承認



アンコショー

昭和五十九年度事業計画案

「信頼と尊敬を基盤とした団結と実践力」と言うスローガンを掲げ、次の事業を行なう。

1. 前年度実施した学術アンケートの集計、特に常用穴の集計と学術交流を始めとする国際学術交流の活発化、会員の研修等学術の振興
2. 所得補償制度の充実、災害救助法適要地域会員に対する義捐金または見舞金の給付など、共済制度の充実、青年部の育成、カセットテープによる広報活動の開始等組織の充実強化。
3. 法律第二一七号（あん摩師等法）の抜本的な改正と保険獲得運動の新しい施策とその展開など身分制度の確立、業権の擁護拡大
4. 政治力の充実
5. 以上のほか、従前の活動または事業の点検とその強化

会費値上げを伴う五十九年度の予算案

一、〇〇〇円の値上げ分を政治連盟資金とする問題では、法的に問題はないのかの意見が多く出

— 15 —

て、関野会長も答弁に苦慮されているようだったが、承認され予算案は可決された。尚、歳入で岩手の負担分一六〇としてあった」ので、ミスプリではないか、岩手では一五〇名分しか出せぬと質問。会長より努力目標にして欲しいとの答弁があったが、会計部長と個人的に対談一五〇名分の負担について諒承を得た。

日保連の改組について

機能を失なった日保連を改組するか、それとも解散かについて長時間に亘り論議が展開された。熊本案では解散に反対、改組すべきだ。新潟案では抜本的な改組が実現せぬのなら解散しかないと、それぞれ提案。解散の場合健保問題はどうなるのか、今後如何対処するのかの質問に、会長は新組織に向けて団体協議会の方式で行きたいと答弁する。結果解散を決議する。

鍼灸の健保を進める患者の会を支援する件について

執行部原案通り可決。尚、総会後に開かれた政治連盟総会は執行部原案通り承認可決された。

学術講習会

一〇月一三日（土）・一四（日）の二日間にわたり社会福祉法人岩手県盲人福祉協会と本会の共催で、今回も昨年に引き続き筑波大学助教授の西条一止先生をお招きして鍼灸マッサージの理論と臨床・鍼灸マッサージの内外における諸情勢をテーマに講演して頂き参加者一同、深い感銘を受けました。



西条一止筑波大学助教授

西条先生は西ドイツに行かれ、理学療法関係の諸施設を見学されたお話から始められた。例えばサウナ風呂などは男女混浴で何の屈託も無く楽しんでいる。日本では到底考へられないことで家族ぐるみ楽しめる。マッサージを受けて見たがキチンと施術していた。

— 16 —

西ドイツでは三〇万、五〇万という都市が多く日本と違って通勤時間が短く、労働時間がキチンと守られていてサマータイム（夏の季節に時刻を一時間早める。日本でも戦後間もなく実施したことがある）が実施されているので退勤時間が陽が高いうちになる為余暇にスポーツをして楽しんでいる。

- 鍼灸マッサージの需要が最近落ち込んでいる、これはプームが無いからだ指摘された。
- 健保の取扱いが実施できないでいるが多くの政治家達が鍼灸を受療していて高く評価している。
- 近代における鍼灸マッサージの経営について。

尚、鍼灸マッサージの理論と臨床では、日本も週休二日制や労働時間の短縮などが実施されつつある。将来、余暇をスポーツをする人達が増えて来ることに備えて、各種スポーツに於ける疲労する場所について詳細に述べられ、臨床実技指導を行われた。

日本東洋医学系物理療法学会 第十回学術大会（熊本大会）に参加して

副理事長 越本政男

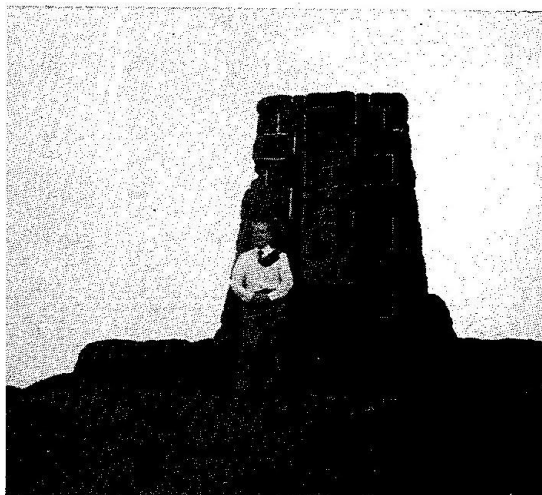
日 時 昭和五十九年九月二十九日（土）・三十日（日）

いずれも午前九時より午後五時まで。

会 場 熊本市水道町一五の十一 熊本郵便貯金会館

主 催 日本東洋医学系物理療法学会 熊本県鍼灸マッサージ師会

後 援 文部省・厚生省・熊本県・熊本市・熊本県医師会・社団法人全日本鍼灸マッサージ師会・社団法人・全国病院理学療法協会・全国盲学校理療科教員連盟・全国東洋医学学校協会・明治鍼灸大学・NHK 熊本放送局・熊本放送・熊本県民テレビ・テレビ熊本・熊本日日新聞



阿蘇にて

— 17 —

この学会も十回大会を迎えたが、思えば此の学会の旗上げともいえるべき第一回大会が昭和五十一年二月十四日（土）・十五日（日）の二日間、福岡市内にある県立勤労青少年文化センターで開催されたが同じ九州であった。私は第三回東京大会（昭和五十三年十一月五日・六日九段会館から参加しているが、昨年の神奈川大会までは佐々木至・三枚堂トシさん等の業友や県立盲学校の先生達と賑やかな旅でしたが、今回は九州と言う遠い道のりだけに私一人の旅となりました。

火の国と言うだけあって、気温二七度二八度と暑く、みちのくの真夏さながらで半袖のワイシャツを買い求めた。宿泊は熊本城が見える熊本観光ホテルで、川村智夫東鍼連会長と同室でした。

大会は七百余名が参加して、第一日目の午前九時二〇分より開会式が行われ、九時四〇分より東京都の伊藤孝氏のレーザー光線の臨床的研究発表が皮切りとなり、二日間に亘り一般講演二五題、特別講演三題、シンポジウム一題。尚、総会も二日目の掉尾に開催され、六〇年度の第十一回大会は兵庫県姫路市で開催される。

大会一日目、この学会の旗を作りたいとのことで参加者へ募金の要請があり、心よく応じる。此の日だけで三十余万円が集まり関野学会長も感激されていた。

それでは研究発表の中から臨床に即使えそうなものを紹介しよう。

○天枢穴による腰痛の診断と治療・急性腰痛症の場合、患者自身どちら側の腰が痛いかならぬ際に左右の天枢穴の圧痛の差により容易に病側を知ることが出来る。しかも其の圧痛部位が浅ければ浅い程その病は新しく、深ければ深いほど病の古さを知ることが出来る。天枢穴の圧痛を除去することによって腰痛の緩解をもたらすもので診断と治療が同時に出来る。ごく初期の場合、天枢穴の圧痛部に標治法として皮内鍼を留めて置くだけで腰痛が治癒することもある。



開会式、関野学会長

○肩関節痛の消去及び軽減の刺鍼法、赤羽氏治療法及び経絡治療法として肩甲関節または上肢痛の消去法について発表いたします。器質的変化が無く、慢性に移行しない疾患で単に疼痛のみあるもの
(1)診断法、上肢の上下運動をさせ、どの経に異状があるかを確認する。(2)井穴の測定、手の各井穴を鍍鍼で圧をかける。または患者の指先を両方からツمامように圧迫し、一番痛みを感じる井穴が変動経。(3)治療法、少商（肺）商陽に痛みがあれば肺兪に置鍼、大腸兪に雀啄、中渚、関衝に圧痛があれば厥陰兪に置鍼、三焦兪に雀啄、少衝（心）少沢に痛みがあれば心兪または厥陰兪に置鍼、三焦兪を雀啄。

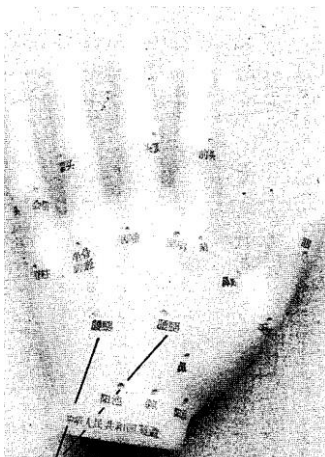
- (イ) 背部置鍼は下方に向け四五度・五ミリ刺入。
- (ロ) 雀啄しながら上肢の運動をさせる。
- (ハ) 肺・大腸・心包・三焦の混合することもある。
- (ニ) 肺・大腸・小腸・心包の場合、心兪または厥陰兪に置鍼、大腸兪に雀啄
- (ホ) 用鍼寸三、三号・銀鍼
- (ヘ) 患者の姿勢は坐位とする
- (ト) 痛みが消去したあと各兪穴に円皮鍼または皮内鍼を貼布する。

○香川県の越智久雄と言う方が、腰痛に対して腰腿点を臨床応用して僅か二六名の症例ではあるが八〇%の効果を上げたと発表された。この腰腿点とは手の甲に二点ずつ左右四点に置鍼する方法で、越智氏によると補助穴として肝経の太衝を使用したほかは、他の穴は一切使っておらず、激痛のため伏臥位になれぬ患者によい方法であり、動作困難な患者に効果があったとか。



水前寺公園

次に、置鍼時間についての質疑では一五分であったり四〇分であったり、患者個々により置鍼の時間は、まちまちであった。私も腰腿点刺鍼をギックリ腰の患者に用いています。順番を待つて居る間を利用して行なったり、腰腿点刺鍼をしたまま患部に刺鍼する方法も行なっています。



腰腿点

○静岡県横山武氏は上星に銀鍼寸三―三号を百会の方に向けて一センチ刺入、一五分の置鍼により風邪のため絶え間なく流れる鼻水を留める特効穴であると発表。六〇症例もあるとのこと、私も追試して見ましたが其の通りでした。但し私の場合はステンレス鍼を使用しました。また、此の上星穴は鼻づまりにも効果があることを知りました。横山氏は上星穴に約七週間（日曜日を除く）刺鍼し臭いが全くしない患者を二件治癒させたと発表。症例が少ないので皆様の追試をお願いしたいと結ばれました。

次に、第九回神奈川大会から修了証書が与えられるようになりましたのでご紹介申し上げます。

学術研修記

越本 政男 殿

あなたは本学会の第十回学術大会に於いて所定の研修を修了せられたので之を証します。

昭和五十九年九月三十日

日本東洋医学系物理療法学会

会長 関野 光雄 学会長印

第十回学術大会

大会長 尾田 保 大会長印

岩保会の動き

五十九年度・定期総会開催 岩保会の存続を決める

— 20 —

定期総会は、七月二二日（日）午後一時より盛岡市八幡宮境内・さくら会館で開催された。

定期総会は、佐藤副会長の開会の辞で始まり、会長挨拶と続き、議長に赤崎幾哉氏を選び議事に入った。

三浦会長が会務報告のなかで、去る六月一〇日に日保連が解散になったことで、本会の会員の間に本会の存否について色々と意見が出ている様だが、今日は存否を皆さんで大いに論じて欲しいと述べる。



岩保会総会

続いて、佐藤副会長より去る六月一〇日・東京・千代田区永田町・薬業健保会館で開催された日保連解散総会の経緯を説明。つづいて五八年度庶務・決算報告を承認した。このあと三浦会長より岩保会を解散すべきか或いは存続させるべきか、いずれかを決めて頂きたいと提案された。しかし解散すべきだと言う声は一つも出ず全員一致して存続を決定した。存続の理由としては、いずれ日保連に変わり健保協定推進の為の機関が出来るものと考えられるので、その受皿が必要である。

日保連の解散により、健保協定は夢のまた夢とはなったが健保への推進については岩手県独自の運動を続けなくてはならない。その為にも会は必要だ。解散をしたとしたら、日鍼会・全鍼師会・日盲連・日マ会それぞれのイデオロギーに依り共通の問題でも各々取り上げ方が違って来る。これは好ましい事ではなく、矢張り岩保会の中で討議してゆく事がよい。

岩保会は県鍼会と県鍼按師会との間に友好関係が生じている。この事だけでも岩保会の存在意義があった。今後は健保協定のみでなく色々な問題についても討議する場としたい。また、岩保会は日保連とは関係ないので中央に追随すべきではない。

— 21 —

しかし、健保協定の道が閉ざされた事により、今後、会員の動揺は必至だと思うが会に加入すれば保険取扱いが直ぐに可能になるという安易な考えで入会した方々の脱落は仕方がない。でも、何とか脱落者を出さない為にも今後魅力ある会の運営が必要だ。吾々は未来に悔いを残さぬためにも健保協定推進のための捨て石となる覚悟をして今後に臨むべきだ。等々、長時間に亘り存続賛成意見が活発に述べられた。

この後、五十九年度事業および予算案が可決され、午後四時過ぎ石川副会長の閉会の辞により終止符が打たれた。

中央業会の動き 小川執行部へ期待 五十九年度日鍼会総会

五月五日、六日の両日、千代田区の日本都市センターで日本鍼灸師会の代議員会、総会が盛大に開催された。出席代議員一二一名。

会長就任一年目の小川執行部に対する代議員の評価は、きわめて友好的であり、総会は波瀾もなく執行部のソツのない報告答弁でスマートな総会運営に終始。

小川会長は、その挨拶の中で「すべてにおいて『和と協調』の精神を基本とし、対話と忍耐をモットーに対処して」一年を経過したと述べた如く、行政関係との協力、社労関係の自民党有力議員との親密な接触、他団体との円満外交など、すべてにわたって小川会長の人柄を反映した事業遂行であり、顕著な業績はないものの、執行部に寄せる信頼と期待は大きかった。



盛岡で開催の学会で講演する小川日鍼会会長

— 22 —

五十九年度の基本的事業として、

- (1) 健保団体協定の推進
- (2) 組織の拡充強化
- (3) 学術の振興
- (4) 鍼灸の普及啓蒙

の四項があげられていた。

日鍼会の現在会員数は発表によれば六〇七三名である。各都道府県別会費納入状況表では、東京の六九二名を、大坂が七〇〇名と少し上回っている。和歌山の一名、島根の十二名、山梨の十九名と少数県もあり、全国的な会員増加の運動も日鍼会の重要課題である。

全鍼師会 全国師会長会議開催

十一月二十三日午後一時より四谷の全鍼師会会館に於いて、全国師会長会議が開かれ、三十三府県師会長もしくは会長代理が参加。

主たる協議事項は次の通り。

一、視覚障害者対策について

昭和五十五年七月十一日、三団体で合意調印されたいわゆる合意書第六項の「この再編成に当たっては、各団体の中に視覚障害者のための特別な組織を設けるなど、視覚障害者に対し十分な配慮を行なう」という事項に対し、全鍼師会は今迄手をつけていない状態であるので鋭意積極的な取り組みを検討して行く。



開館当時の全鍼師会会館

— 23 —

二、日保連解散に伴う健保推進団体協議会の発足について

日保連解散後今日迄の経過報告が行われ、四団体合議によって作成された「健保推進団体協議会規約(案)」が検討された。規約案はおおむね諒とするも、なぜ日マ会があるのに福祉団体の日盲連がいつ迄も介在してくるのかという疑問が質問されていた。

三、政治連盟のあり方について

五十九年度大島での総会決議通りとすることが再確認された。ある時期、政治連盟結成に当って手続き上の問題で登録会員を各師会より拠出してもらいたい等の要請を一部で行なったが、自治省に照会した結果、問題がないので全鍼師会会員イコール政治連盟会員として行く。近く結社の届出をすることが確認された。

四、日東医学会への積極的協力とその具体的方策について

学会員が年々減少傾向にあるので歯止めをしたい。大会には地元開催地よりの参加者もあり、かなりの盛況を示すが、学会を支える恒常的な会員の不足を、各師会最底十名の会員を作って、日東医学会を盛り上げて行きたい。

五、無免許対策について

カイロ療術をはじめ、温泉ホテル所属のマッサージ師の無免許などについては、従来よりも徹底した摘発取締りを強化しその撲滅を期するなどの事柄が協議決定された。

尚、健保推進団体協議会への全鍼師会よりの代表理事は、関野・山田正副会長、草田広報局長の三名。六十年定期総会は石川県の山中温泉で五月に、また、日東医学会は十月、兵庫県姫路市でそれぞれ開催されることが再確認された。

社会福祉法人・岩手県盲人福祉協会 理事長 大堂他人氏逝く

岩手盲業界のために故柴内魁三先生の遺志を継がれ半生を盲教育に、更に盲人福祉向上のために貢献され岩手盲業界の父とも言うべき大堂他人先生が、五十九年五月二十二日午後六時四十五分、入院加療中の岩手医大で薬石効なく肝不全のため逝去されました。享年七十二歳でした。

葬儀は五月二十七日午後二時、盛岡市愛宕町・正伝寺に於いて行われました。故人の遺徳をしのび逝去を悼む会葬者で寺の境内が埋め尽くされました。謹しんで先生の御冥福を御祈り申し上げます。

故大堂先生の略歴

明治四十四年八月盛岡市上米内に於いて出生。

岩手師範を経て東京聾師範を卒業され、小学校・県立盲啞学校の教諭の後、昭和二十四年に県立盲学校の二代校長に就任、昭和四十六年三月に退職される。此の間、故柴内先生の遺志を継がれ、第二代岩手県盲人福祉協会の会長となられ、社会福祉法人化を実現され、盲人ホームを設立されるなど、盲人福祉向上のために活躍されました。

— 24 —

社会福祉法人・岩手県身体障害者協議会会長・岩手県身体障害者審議委員長等を歴任された。



教え子の息子さんの結婚式会場にて、
左から大堂先生、菅野本会顧問、越本副理事長

昭和五十九年七月九日本会創立以来、長年に亘り貢献されて来られた本会顧問の畠山忠司氏が、予てから病氣療養中でしたが急性肺炎のため逝去されました。享年七十七才でした。謹しんで御冥福を御祈り申し上げます。



55年1月12日大沢温泉にて、
左から畠山先生、石川理事長

— 25 —

故人の遺徳を偲んで本会顧問の菅野先生にお願いして、追悼文を寄稿して頂きました有難うございました。又、告別式に読まれた石川理事長の弔辞も掲載いたします。

畠山忠司さんを偲んで

花巻師会長 多田 兼雄

七月九日の曇りがちの朝だった。

窓越しに、カラスが一声かすれたような声で啼いた。

途端に電話のベル、畠山さんがお亡くなりになられたとの K さんからのお知らせ、夢かと思ったがやはり辛く悲しい現実であった。

十二日は葬儀、花巻の宗青寺で、しめやかにとり行われました。

飾られた花の蔭から、ハッハッハッご苦労様ですとかしこまった畠山さんの声が聞えてくるような気がした。

やさしい思いやりがあって親切だった先生、私が入会して間もない頃、三療の免許証を紛失した時、いとわずに再交付の手続きをして下さいました。

また、先生は温泉が好きで、仕事の合間を見てはよく大沢温泉に来ました。私の所に寄っては、露天風呂をほめながら、どんなことがあっても業会から私は離れることはないであろうと語っていた先生と、こんなに早く永遠の別れになるとは思いもしませんでした。

先生は、花巻師会長・県鍼灸師会副会長・日鍼会監事・老人クラブ会長と七十七歳の一生をわが会員のため地域社会のために捧げられました。

御冥福を祈ると共に、御葬儀に御参列下さいました理事長さん始め各師会会長さん達に心から感謝と御礼を申し上げます。

ありがとうございました。

弔 辞

謹んで故畠山忠司先生の御霊前に申し上げます。十日朝、阿部さんよりの訃報に接し驚きました。療養中の事とは存じて居りましたが、家族の皆様にかこまれ幸福にお過しの事をかねてより伺っておりましたので、御元気でいらっしゃるものと思っておりましたが、残念でなりません。

— 26 —

御家族のおなげきいかばかりかと存じます。

畠山先生は昭和二年一月、一ノ関の地主町、鍼灸按摩マッサージ師高田村之助氏に入門され、鍼術、灸術の学術を修業され、昭和六年五月、岩手県衛生課に於いて施行の鍼術、灸術の検定に合格、同年九月にはり師、きゅう師の免許証を交付され、昭和八年十月より花巻市双葉町にはり、きゅう治療所を開業され現在に至っております。

この間、昭和十六年十二月十六日に岩手県鍼灸按摩マッサージ師会連合会が設立されるや同会の評議員となり、昭和三十年より三十九年迄花巻師会長を務め、又、三十七年四月より岩手県鍼灸按摩マッサージ師会連合会の副会長となり、五十六年迄御働きを頂きました。三十八年より岩手県地方審議会委員として五十八年迄御活躍を頂きました。

その後、御身体の具合悪く、副会長審議会委員共御辞退され療養につとめられました。

また、畠山先生には長年に亘り、会議の議事録係として御働き頂きましたが、昭和五十三年の社団法人の申請のときは設立総会議事録を短時日のうちにまとめて頂き、県に提出した次第でありましたが、奥様に聞きますと、皆寝静った夜間にお書きになったと御苦労の程がしのべれます。

畠山先生には親子二代にわたって御世話になりました。お蔭様を持ちまして、吾が岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会も基礎が固まり着々前進をつづけております。これもひとえに先生の御指導の賜と深く感謝申し上げます。

畠山先生、これからも一生懸命がんばって会を進めて行きます。
安らかにおねむり下さい。

昭和五十九年七月十二日

社団法人岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会

理事長 石川 文治

故 畠山忠司さんをしのんで

菅野 長治

畠山忠司さんが亡くなられたのは、昨年の七月九日で葬儀は十二日でしたから、早いもので半年余になりました。何しろ長い間県鍼連の役員として親しくしていただいた人達が、瀬川勝治さん、田村仙左エ門さん、山本孝清さんそして畠山忠司さんと次々に亡くなって行かれたものですから、実にさびしい思いが致します。

畠山さんは若くして鍼灸を学び、昭和の初め頃から花巻市で開業され、忙しい臨床生活の傍ら業界の為に尽くして下さいました。

— 27 —

私が初めてお会いしたのは、昭和十六年十二月十六日の県鍼連創立総会の時でしたが、その以前の旧同盟会当時から業界に入っておられたようです。

畠山さんは実に円満で、思慮深く、まじめな方でしたから、会議等にはほとんど欠席される様な事はなく、発言はいつも言葉少なくして適確で人と争う様な事は決してありませんでした。書く事は正確で要領を得て、いつも会議には記録係を頼まれたものでした。また、人目に立たない地味な仕事を進んで引き受ける人でしたから、会合の準備、後始末等にはまめに働いて下さいました。会もそうですが終戦前後には良く花巻周辺の温泉で総会やら東北大会等をやったものですが、物質不足の折柄、懇親会の飲み物、食べ物等の調達に畠山さんは随分苦労された事を聞いております。



菅野本会顧問（右端）



本会創立 40 周年式典で特別表彰を受ける畠山先生

申すまでもなく、畠山さんは花巻師会の理事及び師会長、岩手県鍼灸按摩マッサージ師会連合会副会長、社団法人岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会連合会副会長及び顧問、岩手県按摩マッサージ指圧、はり、きゅう柔道整復等地方審議会委員等を長い間歴任され、多大の功績を残されました。

ここに長年のご尽力に敬意を表し、ご冥福をお祈りして筆を置きます。

(昭和六十年一月二十三日 記)

師会だより

盛岡師会

総務 内田 幸男

昨年は豊作だったのに、四年続きの不作の影響の方が、より強く我々業界には期待した程の好況には恵まれなかったというのが実状のようです。

盛岡では最近、柔整やカイロ等の開業者が増え、我々業者に大いに影響し、ヒマになったと嘆く会員が増えて居ります。皆様の地域では如何がでしょうか。

さて、当師会の総会は四月に開かれ、色々な問題を話し合いましたが、主な点を記しますと、全鍼師会が打ち出した政治連盟結成ですが、反対ではないが資金の使途について明確にするべきだと言う意見が多く出されました。また非組合員の業者が旅館にリベートを置いているので、対抗上、我々も一定のリベートの額を決めて支払うことにしました。

その外、老人ホームへの治療奉仕・忘年会を開催すること等を決めました。

忘年会は八幡平の「ならたき温泉」で開かれ、事業部や地元の吉田満さん等の御世話で、小ぢんまりした旅館でしたが送迎もあり、値段の割には料理も良く風呂も広々としてサービスも上々でした。

宴会は中村哲夫さんの名司会により進められ、にぎやかなカラオケ大会となり、吉田満さんのプロの味ある演歌も数曲披露され、素晴らしい歌声に会員一同魅了されました。またマイクが何回も回ってきてこの夜ばかりは、何も彼も忘れて楽しい一夜を過しました。

次に会員の消息をお伝えします。

我師会の長老・細川一老さんが入院加療中ですが可成りの重病のようで心配です。細川さんは永年に亘り本会に貢献され、会合には必ず出席され、発言こそ余りなさらぬが私たちの問答をジット耳を傾けて居られました。一日も早く全快される日が来ることを会員一同祈って居ります。

次は、村上恵子さんと鹿糠なり子さんのお二人が休会となりました。また、本年七月六日、七日の両日に東鍼連の岩手大会が開催されますが、我盛岡師会は大会の成功のために全力を挙げて、お手伝いするつもりです。

昨年は、私達盲人には太陽とでも言うべき大堂先生が不帰の人となり、暗闇に放り出されたような悲しい思いをしましたが、今年こそ健康第一に頑張りたいと思います。皆さんも御身御大切に頑張ってください。嫌な出来事が起きない様祈りつつ筆を置きます。

花巻師会

庶務 大川 糸

豊作に恵まれた今年一年、県下業会員の皆様方は、充実した月日を過ぎられたことと拝察致して居ります。我が花巻師会は、不幸にも畠山さんを失った哀しみを乗り越えて前向きに歩み進んでいます。

会長・副会長の名コンビの下で「ツー」と云えば「カー」と返ってくる、会員一同親子兄弟の如く、腹の中をみなさらけ出しての付き合いです。その和やかな家族団欒の様子を御紹介致します。

四月二十一日、一ノ関「いつくし園」での総会の翌日、絶景を誇る狛鼻溪の舟下りを楽しみました。

唄 清き流れの砂鉄の川に ヤンサノエー
舟を浮かべて さをさせば
曇りがちなる 心の空も
晴れてくれます 獅子ヶ鼻

鏡のような水面を滑るように下る舟、御自慢ののどで狛鼻追分を朗朗と唄い上げる船頭さんの美声にうっとり聞き惚れながら、右、左とそそり立つ岩肌を眺め、藤の花の頃は、さぞや素晴らしい景

— 30 —

観であろうと想像しながら舟に身をまかせて、のんびり下る心持ちよさは、又格別の趣きがありました。行き交う舟上のお客様と手を振り、声を交し、記念写真に気どったポーズを示しながら、賑やかにさわいでいるうちに、最早やスタート地点にもどって舟を下りました。鮎の塩焼きで軽く一杯やり、満足して大型タクシーに乗り込み駅に向いました。

お盆を過ぎ、残暑きびしい八月二十四日、業会、盲会合同のレクリエーションに出かけました。貸切バスは夏油温泉を目ざして一路進行、ヘアピンカーブの難所を上るバスの窓から、夏又涼しい木々のたくましさに見とれているうちに、ふと下を見てゾクッと冷水を浴びたような感じがしました。何と、切りたつ崖っぷち、一步間違えれば皆諸共の道をあえぎながら上っているではありませんか。涼味満点の道路を温泉にむかいました。昔ながらの木枠の浴槽、天然の温泉に心ゆくまでつかり、若返った気分になり、広間に入りました。それぞれ昼食をとり、和気あいあいのうちに、昔の唄もあれこれ飛びだし、楽しい一日を過しました。

みよりの秋も終り、美しい錦に着飾った山々も、その衣を脱ぎ捨て、白衣に着替えようとしている十二月三日、家族ぐるみの大忘年会を花巻温泉千秋閣にて行ないました。思い思いに温泉につかり、今年よく働いてくれた手指を御苦労様といたわりながら、又、来年も元気で働けるようにと祈る気持ちで暖めました。

宴会は六時より始まり、頃合をみて、数々の賞品、参加賞に囲まれた採点器付きのカラオケ大会の始まりです。皆さんこの日の為に練習してきたのか大変上手で、中には実力の出せぬ人もあり、最後にくじ引き等もあり、盛り上った最高の雰囲気です。二次会、三次会と時間のたつのは早く、一年間の総決算の年忘れ会でした。

以上、御紹介した行事は、家族ぐるみの楽しみですが、老人ホームディサービスセンターには、年間を通じ週二回、交替の奉仕活動は会員一同、真心をこめて行なって居ります。

全会員の皆様方、未来に向かって健康で力いっぱい進むよう努力しようではありませんか。

来年は丑年“モー参った”等弱音を吐かず“モー大丈夫”と牛の如く大地をゆっくり踏みしめてお互いの道を突進する勇氣と知力を養ない、理療に励みたいと念じて居ります。

花巻師会 広報部

北上・和賀師会

師会長 南川 忠

今年も寒い年末を迎え、何かと心せわしく感じる今日この頃。
各師会の皆様いかがお過ごしでしょうか。

— 31 —

さて、六十一年には当師会で県総会を開催いたしますので、多数御出席くださるよう心からお待ち申し上げます。

当師会の行事を御報告いたします。

※四月五日 北上市の長生館において五十九年度の定期総会を行ないました。六十一年の県総会の協力をもとめ、六十一年の実行委員会をつくり六十一年に向けて準備することを決議いたしました。総会后、懇親会を開き会の親睦を高めました。

※六月七日 北上市の特別養護老人ホーム・敬愛苑に慰問マッサージを行ないました。

※九月五日 湯本温泉特別老人ホーム・光寿苑に慰問マッサージを行ない、その後反省会を致しました。

※九月十七日 盲会と一緒に、三年に一度の物故者の法要を北上市の正明寺において行ない、その後、会場を玉の湯に移して盃をかわし故人の思い出話しをしました。

※八月二十一日 阿部ノブ（佐々木）さんが心不全のため七十五才の生涯を閉じられ、二十三日北上市の善黒寺において葬儀が行われ、会員が多数参列し御焼香を行い御冥福を祈りました。

※三月三十一日 八重樫良雄氏が一身上の都合により本会を脱会いたしました。

五十九年もいろいろな事がありました。

六十年も牛のように根強くがんばりましょう。

一九八四年一二月二五日

胆江師会

師会長 菊地 安夫

昭和五十九年四月一日（日）午後一時より水沢市内・佐々忠に於いて本会の定期総会を開催しました。永年会員として御協力を頂いた阿部市助氏が石鳥谷町に移転されるため退会されました。阿部氏は本会の監事でしたので後任として千葉孝子さんを選出しました。

事業としては、例年の通り老人奉仕治療と研修会を行ないました。老人奉仕治療は見分森寿水荘・立生苑等の施設に午前中訪問・奉仕治療を行ったあと、午後から研修会を開催して居ります。

研修会は水沢市内の清和会館に於いて鍼灸・マッサージ合同で開催、頸肩腕の治療についての録音テープを聞き小沢信男先生に解説して頂きました。次回は六十年二月十七日に老人奉仕治療と研修会を予定して居ります。研修会の講師は、小野田サヨ子先生、テーマは中国訪問。

— 32 —

一関師会

師会長 北峰 忠志

御報告に先立ち此の七月に逝去された県師会顧問の畠山さんに対し深く御悔みを申し上げますと共に心より御冥福を御祈り申し上げます。

さて、当地に於いて開催の県師会の総会には、県北や沿岸の方々には遠い県南の一関でございましたが、それにも拘わらず多数の御出席を頂きました。誠に有難うございました。

今年は春の訪れが遅く、総会の前日には雨や雪が降り驚かされました。交通がおびやかされるのではないかと案じられましたが幸い当日は天候も回復し、無事皆様方をお迎えする事が出来、私共はホット安堵の胸を撫でおろしました。皆様方は厳美溪の美しい桜をご期待されて御出かけ下さったのに、蕾は石のように固く、お見せ出来なかった事が心残りとなりました。皆様方の熱い友情のお陰で懇親会も最高に盛り上りました。また、終宴後は各部屋で賑やかに楽しい一夜を過ごされました。料理も皆様に喜ばれました。それにしても何と短い一夜だったことか、正に夢のようにアツと言う間でし

た。お別れが辛いと思いました。

当日は、皆様から多大なる御祝儀を頂戴いたしました、厚く御礼を申し上げますと共に不行届きの点もあったことと存じますがお許し下さい。今後共よろしく御鞭撻の程を御願い致します。

事業報告

1. 定期総会の開催・会場は古戦場
2. 老人施設への慰問治療は六月十日と九月四日に行いました。慰問先は福光園。
3. 研修旅行を六月三十日に行いました。技術の研修をいたしました。会場はホテル海洋。

最後になりましたが、十二月二日、私の長男の婚礼に際し理事長さんより祝電を頂きました。有難うございました。心から御礼を申し上げます。

以上、御報告と御あいさつにかえさせていただきます。

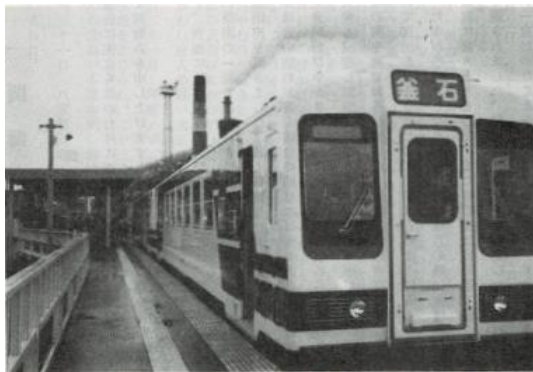
釜石師会

師会長 越本 政男

昨年の四月一日、沿岸住民の長年の悲願だった三陸鉄道が開通した。前日の三十一日の夜は、市民による歌と踊りで前夜祭が行われ、開通当日は市内にパレードが華やかにくりひろげられ、祝賀一色でした。第三セクターと言う日本初の試みだけに、珍らしさと夏の猛暑とが相まって陸中海岸を訪ねる観光客で賑い大盛況でした。

— 33 —

鉄冷えの城下町釜石も、何とか観光の街に蘇えろうと大型ホテル二棟が建築され、既に陸中グランドホテルが新春早々オープンした。また、新日鉄釜石ラグビー部は、一月十五日国立競技場で同志社大と日本一を賭けて対戦、見事勝利を飾り史上初の七連覇の偉業を成し遂げた。一月十八日午後はラグビー達が凱旋、華やかにパレードが行われ市内は興奮のルツボと化した。こんな嬉しい事が続いたものの鉄冷えの影響は大きく広がるばかりで、人口は年毎に減少し続けています。



三陸鉄道（釜石駅にて）



老人慰問奉仕（五葉寮にて）

— 34 —

全国的に吾業界の沈滞ムードもあるのか、吾釜石業界も総じて不況のようです。何とか研鑽を重ねて患者を集める努力を惜しまずに来るべき日を待つしかありません。今年も我慢の年になりそうです。

◎五十九年度総会は五月二十日、午後一時より市内中妻町「さくらい食堂」に於いて開催する。

◎老人慰問奉仕治療は七月十五日、市内にある五葉（ごよう）寮を訪問。尚、老人の治療に先立って、カラオケの道具を持ち込んで、私と寄松氏と二人で演歌のサービスをする。治療する前に肩が楽になったヨ等と喜ばれた。尚、三月中旬に特養ホーム清風（せいふう）園を慰問する予定。

◎三月三十一日付で三枚堂トシさんが当師会を転出、盛岡の女（ひと）になりました。

宮古師会

師会長 中村 強真

ウダルような暑さが過ぎたと思ったら、何時の間にか雪の散らつく季節となりました。正に光陰矢の如しです。

さて、当師会では十月七日・宮古保健センターをお借りして、新客の掘り起しと、日頃お世話になっているお客様へのサービスと福祉事業を兼ねて一回七百円の低料金で治療を実施しました。しかし、結果としては成功とは言えませんでした。ピーアールが足りなかったのでしょうか。来年こそは成功させて、やがて来る会員の高齢化による会費免除会員増による財源不足を補ないたいと思っています。尚、この催しの収益金を社会福祉協議会に寄付いたしました。

その他の事業としては、冷え症に対する鍼灸マッサージの治療について、新人もベテランも大いに語り合い技術の交流を行ないました。尚、レクリエーション・老人ホームへの慰問・山田地区の六十才以上の無料奉仕などを行ないました。また新年会も計画して居ります。

会員数は二十名、山口泰子さんと奥堂房子さんのお二人が、病気のため休会しております。

今年も、市長より当師会に感謝状が、野沢孝一さんには表彰状が授与されました。

久慈師会

師会長 板橋 トク

久慈師会は種市地区だけになりました。

— 35 —

つい先日、玉沢さんが加入したいと申し出てきました。岩本さんは家を新築しました。臼井さんは家庭の事情で私と同居しています。いたらない師会ですが、種市の身障協はじめ、町民の方々が協力して下さるとの事で、少しずつでしようが事業にも参加出来ると思って居ります。会員を増やす事はなかなかむずかしいので、皆様からの御指導をいただきたいと思ひます。

財力もゼロですので、会則も出来ていませんが、牛が歩くようにゆっくりやっ行って行こうと考えております。以上

MEMO

岩手県内人口十五傑

(昭和六十年二月一日現在・県が推計)

- ① 盛岡市 二十三万四千百十人
- ② 花巻市 六万九千九百七十七人

③ 宮古市	六万二千八十二人
④ 釜石市	六万千三百六十三人
⑤ 一関市	六万九百四十三人
⑥ 水沢市	五万六千六百六人
⑦ 北上市	五万六千四百四十人
⑧ 大船渡市	三万九千二百五十五人
⑨ 久慈市	三万九千九十八人
⑩ 都南村	三万五千八百九十七人
⑪ 江刺市	三万四千九百九十二人
⑫ 滝沢村	三万千十九人
⑬ 遠野市	三万百五十六人
⑭ 二戸市	三万百五十一人
⑮ 陸前高田市	二万八千七百十四人
岩手県の人口	百四十二万九千三人

自民県連 会長代理に千葉氏

新執行部人事決まる

自民党県連（玉沢徳一郎会長）は、二十六日、県議会内で、全県議で構成する常任総務会を開き、新執行部人事を協議した。

この結果、新設の会長代理には千葉一県議（七四）、副会長に佐藤徳右エ門県議（七三）が就任。県連運営の実質的な責任者である幹事長には菅三郎県議（六〇）、また、政調会長には伊藤孝県議（五六）、総務会長には菊池正県議（六〇）が決まった。いずれも新任。

— 36 —

全日本東洋医学 機器連合会設立される

去る九月二十五日（月）東京赤坂東急ホテルにおいて、同会の設立総会並びに発足記念パーティーが催された。

同会は主として東洋医学、鍼灸に関する医療用具の品質、規格、安全性、技術、流通（輸出入を含む）等の向上をはかり、同事業に携わる会員相互の融和と発展、国民の保健、衛生の向上に寄与することを目的とし、関係学会、諸団体との友好発展をはかり、東洋医学の普及、宣伝、研究など積極的な事業活動を行うことを目的としている。

会員には鍼、艾製造及び各種治療機器メーカー、流通各社など全国で総勢四十二社が参加して組織された。

初代会長には、鈴木医療器（株）社長鈴木実氏が選出され、副会長、常任理事など各役員には全国的に信望の厚い会員諸氏が選ばれた。

また、祝賀パーティー来賓には、参議院議員安井謙氏初め、関連各社及び業界を代表する諸氏が祝福につめかけた。社団法人日本鍼灸師会名誉会長木下晴都氏の音頭による乾杯となり華々しい同会のスタートとなった。

◎ 筑波万博に、鍼灸経穴銅人形が展示される。

◎ 日本電電公社が六十年四月一日から民営化される。社名は日本電信・電話株式会社となる。略称はNTT。

三療受診患者一・二％ 国民健康調査より

八月十一日、厚生省が発表した五十八年国民健康調査の結果によると、国民が病気にかかった場合に、あんま、マッサージ、指圧、はり、きゅう、柔道整復にかかる割合は、一・二％である。五十七年の一％に比べて、わずかにアップしているが、五十四年、五十五年の二％台には及ぶべきもなく、国民の“三療離れ”が依然として続いているといえよう。

この調査は昭和二十八年から厚生省が毎年実施しており、昨年は十月四日時点で全国約一万六千世帯（約五万三千人）を対象に調べた。

－ 37 －

それによると、国民八・一人に一人が病気やケガで医師等にかかっていたが、その治療方法では病院・診療所で治療を受けているものが圧倒的に多く、九一・二％（一昨年は八九・九％、以下同じ）、売薬による治療が六・四％（八％）、三療等による治療が一・二％（一％）、その他の治療が〇・八％（〇・八％）、治療しないものが〇・五％（〇・三％）だった。

ところで、国民が病気やケガをした際、三療等にかかる年次推移は表Ⅰの通りで、一％から二％台でゆれ動いている。四十六年から八年にかけての二％台は、岩戸景気、神武景気といわれた高度成長時代、国民の財布のひもがゆるかったものとみられる。また五十一年から五年にかけての二％台は、中国のハリ麻酔の影響であろう。しかし、ここ三年間は、一％台そこそこで推移している。なぜだろうか、業界としてこの中味を吟味してみる必要があるのではないか。

表Ⅱは、主要傷病別、年令別、発病期間別の治療方法を見たものである。まず、国民がどんな病気やケガをしたときに三療等にかかるかを見ると、筋骨格系及び結合組織の疾患の場合が最も多くて、七・八％（一昨年は五・九％）だった。以下、損傷及び中毒の場合が、六・一％（四・五％）、症状、徴候及び診断名不明確の状態の場合が、一・六％（〇・七％）、神経系及び感覚器の疾患の場合が、〇・五％（〇・三％）、呼吸系の疾患の場合が〇・一％（〇・二％）だった。

男女別にみると、男が一％、女が一・四％の割合で女性が多かった。また、年令別では区分別ではほとんど一％台、必ずしも老人の三療利用率が多いという結果は出ていない。

表Ⅰ あんま・はり・きゅう 柔道整復にかかる年次推移

年 次	%	年 次	%
昭和40	1.7	昭和50	1.9
42	1.6	51	2.5
43	1.7	52	2.1
44	2.1	53	2.5
45	1.9	54	2.5
46	2.7	55	2.7
47	2.3	56	1.2
48	2.7	57	1.0
49	1.7	58	1.2

－ 38 －

表Ⅱ 主要傷病別、年齢別、発病期間別治療方法

(単位%)

		総数	病院・ 診療所	一般 入院	一般 通院	歯科入 ・通院	按摩・鍼灸 ・柔道整復	売薬	その他 の治療	治療 しない
主 要 傷 病 別	総数	100.0	91.2	7.6	80.3	3.3	1.2	6.4	0.8	0.5
	I 感染症及び寄生虫症	100.0	94.1	11.9	82.2	—	—	5.9	—	—
	II 新生物	100.0	98.5	30.8	67.7	—	—	—	1.5	—
	III 内分泌、栄養及び代謝疾 患並びに免疫障害	100.0	97.7	10.1	87.6	—	—	1.1	1.1	—
	糖尿病（再掲）	100.0	97.1	10.3	86.8	—	—	1.2	1.7	—
	IV 血液及び造血器の疾患	100.0	100.0	2.1	97.9	—	—	—	—	—
	V 精神障害	100.0	97.3	40.5	56.8	—	—	2.7	—	—
	VI 神経系及び感覚器の疾患	100.0	96.5	5.5	91.0	—	0.5	1.8	0.5	0.8
	VII 循環系の疾患	100.0	98.7	7.1	91.6	—	—	0.5	0.4	0.4
	高血圧性疾患（再掲）	100.0	99.2	3.3	95.8	—	—	0.2	0.4	0.2
	脳血管疾患（再掲）	100.0	96.7	28.2	68.5	—	—	0.6	—	2.8
	VIII 呼吸系の疾患	100.0	78.0	3.4	74.7	—	0.1	19.6	1.2	1.1
	急性上気道感染（再掲）	100.0	69.3	1.0	68.3	—	0.1	27.2	1.9	1.5
	IX 消化系の疾患	100.0	93.7	9.4	33.1	21.3	—	5.9	0.3	0.1
	歯及び歯の支持 組織の疾患（再掲）	100.0	98.3	—	—	98.3	—	1.7	—	—
	胃及び十二指腸 潰瘍（再掲）	100.0	98.3	13.5	84.7	—	—	1.3	0.4	—
	X 泌尿生殖系の疾患	100.0	97.9	11.4	86.5	—	—	0.5	0.5	1.0
	XI 妊娠分娩及び産褥の 合併症	100.0	100.0	33.3	66.7	—	—	—	—	—
	XII 皮膚及び皮下組織の疾患	100.0	87.6	1.5	86.1	—	—	10.9	1.5	—

— 39 —

		総数	病院・ 診療所	一般 入院	一般 通院	歯科入 ・通院	按摩・鍼灸 ・柔道整復	売薬	その他 の治療	治療 しない
主 要 傷 病 別	XIII 筋骨格系及び結合 組織の疾患	100.0	87.0	5.1	81.9	—	7.8	3.3	1.4	0.4
	XIV 先天異常	100.0	100.0	16.7	83.3	—	—	—	—	—
	XV 周産期に発生した 主要病態	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	XVI 症状、微健及び診断名 不明確の状態	100.0	69.8	4.7	65.1	—	1.6	24.8	1.6	2.3
	XVII 損傷及び中毒	100.0	80.9	14.1	66.4	0.5	6.1	11.5	1.4	—
	V 歯の補綴（ほてつ）	100.0	100.0	—	—	100.0	—	—	—	—

		総数	病院・ 診療所	一般 入院	一般 通院	歯科入 ・通院	按摩・鍼灸 ・柔道整復	売薬	その他 の治療	治療 しない
年 齢 階 級 別	総 数	100.0	91.2	7.6	80.3	3.3	1.2	6.4	0.8	0.5
	男	100.0	91.5	8.9	79.3	3.4	1.0	6.3	0.7	0.5
	女	100.0	91.0	6.6	81.2	3.2	1.4	6.4	0.8	0.4
	0～4歳	100.0	87.0	3.0	81.5	2.5	—	9.4	1.4	2.2
	5～14歳	100.0	82.7	1.8	74.7	6.2	1.0	14.7	1.7	—
	15～24歳	100.0	76.3	7.7	60.9	7.7	0.7	20.1	2.0	1.0
	25～34歳	100.0	79.9	6.6	64.5	8.7	1.1	18.1	0.2	0.7
	35～44歳	100.0	88.2	7.0	72.8	6.4	1.9	10.8	0.9	0.1
	45～54歳	100.0	90.8	7.1	80.1	3.6	1.7	6.3	0.8	0.5
	55～64歳	100.0	95.5	8.0	85.5	2.0	1.3	2.2	0.6	0.4
	65～74歳	100.0	97.1	7.9	88.0	1.2	1.1	1.1	0.3	0.3
	75歳以上	100.0	96.9	13.7	83.0	0.1	0.8	1.4	0.5	0.4
	70歳以上（再掲）	100.0	96.9	11.8	84.6	0.5	1.0	1.5	0.4	0.4
発 病 期 間 別	総 数	100.0	91.2	7.6	80.3	3.3	1.2	6.4	0.8	0.5
	1週間未満	100.0	69.9	2.8	61.9	5.2	1.3	26.1	1.8	1.0
	1週間以上1か月未満	100.0	91.5	8.0	72.8	10.7	2.0	5.9	0.4	0.3
	1か月以上3か月未満	100.0	93.9	13.0	72.6	8.3	2.6	2.0	1.0	0.6
	3か月以上6か月未満	100.0	95.9	14.3	75.8	5.8	1.9	1.7	0.3	0.3
	6か月以上1年未満	100.0	96.6	11.5	83.4	1.7	1.4	1.0	0.8	0.2
	1年以上	100.0	97.1	7.2	88.6	0.3	0.6	1.4	0.5	0.4

— 40 —

編集後記

今年の一月は、昨年以上の酷寒でしたが、立春を過ぎてから緩み、春の訪れが早いのではないかと楽しみです。

昨年は大堂先生・畠山先生そして、北上の阿部ノブさんのお三人が逝去されました。畠山先生の訃報を耳にしたのは旅先の北海道知床岬のホテルでした。大変驚きました。畠山先生の葬儀には参列出来ませんので、「ハルカ・シレットコノソラヨリ・ゴメイフクヲオイノリイタシマス」と弔電を打つしかありませんでした。謹んで御三方の御冥福をお祈り申し上げます。

畠山先生の遺徳を偲ぶ追悼文を菅野本会顧問に書いて頂きました。有難うございました。

今回は、点字の原稿を受付けず墨字のみで御投稿を皆様にお願ひしました。若しかしたら寄稿が少なくなるのではと、案じていましたが例年通りの師会だよりになりホットしております、有難うございました。点字を墨字に翻訳することは大変な仕事です。多田兼雄氏ご夫妻には大変ご苦労をお掛したようです。心より御苦労様と申し上げたい、有難うございました。墨字訳で一番苦心するのが人名や地名また催しものを行った会場名などで、地図を広げたり電話帳を調べたり大変な仕事でした。今後とも宜敷く御協力の程を御願ひ申し上げます。

最後に会員の皆様方の御健勝をお祈り申し上げます。

昭和六十年二月二〇日

編集責任者 越本 政男

社団法人・岩手県鍼灸按摩・マッサージ指圧師会

昭和五十九年度 会報第十七号

昭和六十年三月十五日発行

発行人 理事長 石川 文治

〒〇二三 水沢市中町一六七

電話 (〇一九七二) 三一五七二二

編集責任者 副理事長 (事業部長) 越本 政男

〒〇二六 釜石市中妻町二丁目一番二六号

電話 (〇一九三) 二三一六四三九

事務所 〒〇二〇-〇一

盛岡市箱清水一丁目三六番五号

下佐征昭方 電話 (〇一九六) 六一一六二七七

事務局 (総務部長) 下佐 征昭

印刷 青木印刷

〒〇二六 釜石市中妻町二丁目四番二十五号

電話 (〇一九六) 二三一六六八七

- 41 -

鍼・灸・用具専門店

.....(取扱品目).....

○針及び針灸用具 ○消毒装置 ○電気治療器

○温熱装置 ○治療室開業諸設備 ○物療器具

新取扱商品紹介

健康サンダル：足の疲れを取り、毎日を健康に美しく。

特長：リトルアース・ルーミーは足の科学が生んだ、健康増進サンダル。

弾力性に富んだ天然ゴムの突起群〈メディカルライン〉が足の裏から静脈、リンパ管、神経などを刺激し、足と体にさまざまな効果をもたらします。

こんな方におすすめします：足の疲れやすい方、
足の冷えやすい方、
足の運動不足ぎみの方、
足をひきしめたい方。

ルーミー (スリッパ式) 内用 @2,900 円

ノンスリッパ (金具付) 外用 @2,600 円

ビーチ式 (ハナオ付) 外用 @2,900 円

(治療院価格有ります。)

ホットベルト：水でホカホカ、ふしぎなベルト。

1回の吸水で、10~14時間保温、しかも繰り返し4~5回OK

冷え症でお困りの方に。

ホットベルト (腰用) @2,200 円

ケミックホット (腰用スペア) @1,100 円

ホットホルダー (ひじ・ひざ用) @1,800 円

ミニホット (ひじ・ひざ用スペア) @500'円

(治療院価格有ります。)

有限会社 ヤマキン

〒034 青森県十和田市大字相坂字相坂 90

電話 (0176) 23-9138

郵便振替 (盛岡) 3-597 番